

乳化・攪拌装置を拡販

みづほ工業、医薬・化学照準

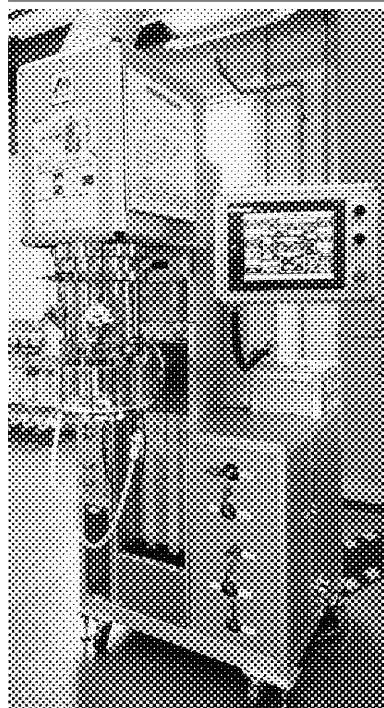
みづほ工業（大阪市西成区、坂下武司社長）は、化粧品業界向けをメインに展開する乳化・攪拌装置事業で、医薬・化学業界の開拓に乗り出す。このため医薬・化学に適した高粘度材料でも混練できる試験用真空練合装置を開発し、2027年3月期末ごろの発売を目指す。まず研究開発部門から提案を強化し、生産機の販売にもつなげる。同事業で医薬・化学業界向け売上高比率を、30年3月期に現在の約10%から約20%に引き上げる。同社はサノヤスホールディングスの子会社。

みづほ工業が新たに開発したのは試験用真空練合装置「PVK-S」。乳化、分散のための高速ミキサーと、混練のためのプラネター

リーミキサーという2種類の羽根を備えるのが特徴。乳化、分散、7000回転程度という混練の工程が1台で可能となる。高速ミキサーは自転しながら回転することで高性能の

混練を実現する。またガラス容器の採用により、混練状態を可視化できるのも特徴。

同社の乳化・攪拌装



試験用真空練合装置「PVK-S」

置事業の売上高は約40億円で、うち80%程度が化粧品業界向け。化粧品業界はインバウンド（訪日外国人）需要や好調な輸出に支えられてきたが、近年は輸出が落ち込み、今後の成長は期待しづらい。このため今後は、納入実績が少ない医薬・化学業界をターゲットとし、まず新機種により試験需要を開拓し、顧客の裾野を広げる。医薬業界向けでは外

皮薬やカプセルなど、化学業界向けでは樹脂、塗料、二次電池の電極材料などの製造用途を想定する。価格競争が激しい食品業界向けでも高付加価値製品で提案し、競合他社との差別化を図る考え。同社は化粧品業界向け乳化・攪拌装置では国内トップ。